

危ないケアを安全に実施する



新型コロナウイルス感染症対策

行動モニター/自主点検活動

未発生期

標準予防策

疑い例
または単発

標準予防策

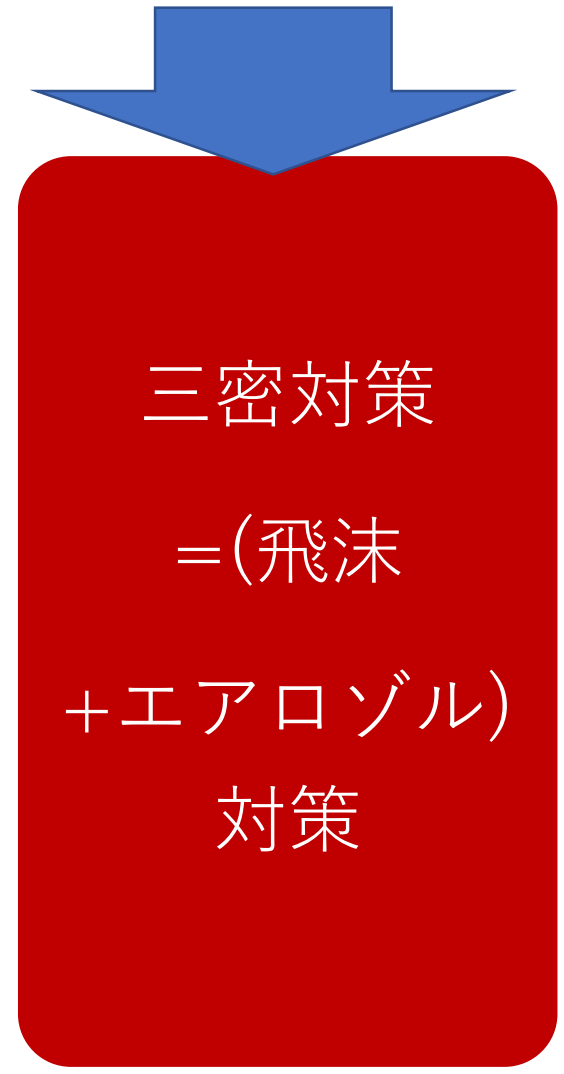
経路別
予防策

複数患者
発生

標準予防策

経路別
予防策

ゾーニング



本部立ち上げと指揮命令系統



新型コロナウイルスとノロの対比

	新型コロナ	ノロ
飛沫感染	+	+++
糞-口感染	?	+++
汚染物感染(環境からの二次感染)	?	++
環境中での自然不活化	72時間	数週間
消毒効果	石鹼でもアルコールでもオスバンでもなんでも効く	次亜塩素酸ナトリウムしか効かない
無症状者からの感染経路	飛沫/エアロゾルから起こる	通常便のみ

飛沫/エアロゾル対策以外はノロの方がずっと大変

飛沫/エアロゾール対策の
クリティカルポイント



無症状者(特に発病の前日)も含めて 飛沫感染に備える

エアロゾル/飛沫の発生を低減させる

エアロゾル/飛沫の放出を低減させる

エアロゾル/飛沫が他者に到達しないようにする

飛沫で汚染された場所が二次汚染を起こさないようにする

エアロゾルの滞留を防ぐための

飛沫がかかっても体内に取り込まないようにする

エアロゾルを吸入しないようにする



エアロゾル/飛沫の発生を低減させる

- 咳/くしゃみ
- 歌
- 大声
- 過換気(運動や興奮)
- レクリエーションの歌は避けられないとしても職員の大声や大騒ぎは避けられるはず(特に休憩時)
- 大声も屋外で2m以上離れて話す分には全く問題ない

を如何に避けるか



エアロゾル/飛沫の放出を低減させる

	エアロゾル	大きな飛沫
布マスク	70%程度減らす	70%程度減らす
不織布マスク	90%以上減らす	95%以上減らす 咳のときに周囲に漏れる
N95マスク	適切に装着すると90%以上減らす ただし、咳で外れてしまうと意味無し	
フェイスガード/シールド	全く意味無し	正面には飛ばずに周囲、 後方へ飛ぶ



マスク過信の危険性

- 正面への飛散はかなり防いでもマスク周囲からの飛散は防ぎきれない
- マスク周囲からの飛散も顔が近づいている場面では危険がある
- 職員から利用者への飛散を防ぐためには職員側のフェースシールドが有効
- 利用者からのマスク周囲からの飛散を浴びる危険を回避する上でも職員側のフェースシールドは有効



エアロゾル/飛沫が他者に到達しないようにする

- 距離: 離れば離れるほど効果がある。1m以内15分以上の相対する状況をもって濃厚接触とする
- 距離が近くても間仕切りがあれば飛沫の飛散を阻止できる
- エアロゾルは巻き上がるので、口元より70cm程度上まで無いと飛散を阻止できない



飛沫で汚染された場所が二次汚染を起 こさないようにする

- 飛沫については前1.5m以内の消毒
- エアロゾルの沈降による汚染まで気にする必要はない



エアロゾルの滞留を防ぐ

- エアコンでの冷暖房は必ずしも換気ではない(混ぜているだけ)
- 換気のためには
 - 外気の取り入れ
 - 循環気の消毒
 - 循環気の病原体除去(HEPAフィルター)
- 屋外ならエアロゾルはほとんど問題にならない



飛沫がかかっても体内に取り込まないようにする

口/鼻: 不織布マスク

目: フェイスシールド

手: 手洗いまたは消毒

要確認事項

- 着用時よりも外す時の注意
- 外したマスク等の置き場所
- 外したフェイスシールドの消毒の方法



エアロゾルを吸入しないようにする

- 不織布マスクだけでは70%程度しかエアロゾルの吸入を減らせない
- 不織布マスクも漏れを防げば90%以上のエアロゾルを防げる
- N95マスクなら適切に装着すると95%以上のエアロゾルを防げる
- N95もズレてしまうと意味をなさない

飛沫/エアロゾル対策の ターゲット

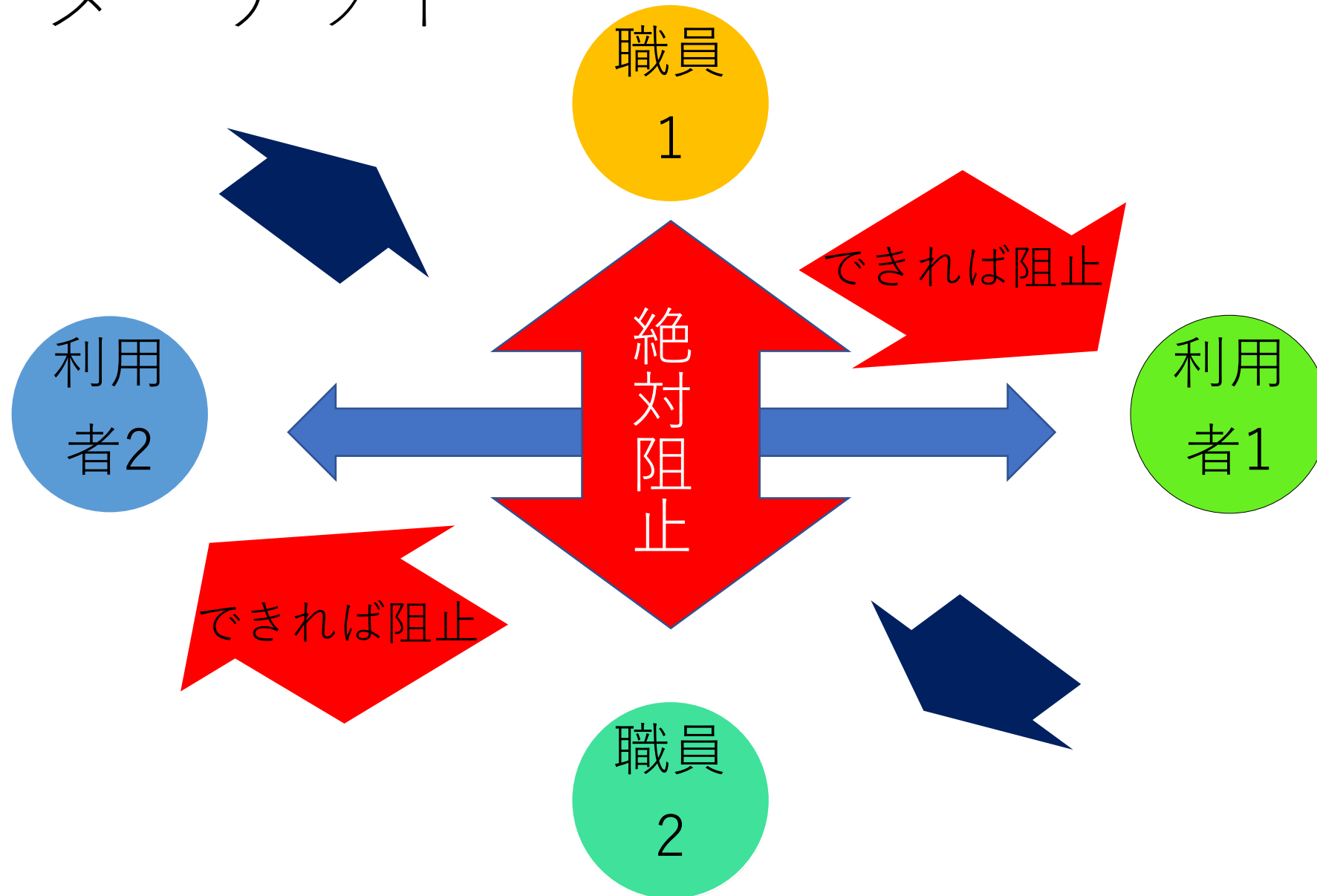


介護は危ないケアばかり？

- 介護者同士の感染は絶対阻止する
 - すべての対策ができるはず
- 介護者から利用者への感染をできるだけ阻止する
 - 発生防止
 - 放出防止
 - 汚染除去
 - 利用者の手洗い促進
- 利用者から介護者への感染をできれば阻止する
 - 汚染除去
 - 吸入防止
- 利用者同士の感染をできれば防止する



ターゲット





介護者同士の感染阻止のポイント

- 殆どの感染が休憩室/喫煙室等で発生
- マスクの着実な使用
 - 鼻出しマスクの回避
 - サイズの合わないマスクへの注意
 - 不潔な着脱への注意
- マスクを外した際の注意
 - 身体距離の確保
 - 会話の抑制

場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。





介護者から利用者への感染拡大をできるだけ阻止する

- 発生源側の対応は、非感染側の対応よりも有効
- 介護者自身のマスクの不適切着用は避けることができる
- 入浴介助時もせめて布マスク着用ぐらいは可能なはず
- フェイスシールド着用だけでの屋内でのケアは避ける
- 難聴のある人への会話方法は工夫を要する
- マスク着用した介護者へは不安を呈する利用者にはマスクをはずした挨拶や、ボディタッチなどの不安解消方法がある



利用者から介護者への感染をできれば 阻止する

- 無症状の利用者に先に感染者が紛れ込んでいる見込みは低い
- したがって、患者発生が懸念される前から、著しい制限的対応を行うことは勧められない(努力賞にしかない)
- 一方、患者発生後に備えた練習の意味はある
- そこで、一番危ないケアから順に安全化をはかる

患者発生に備えた危険ケアの
洗い出しと対策



危ないケア = 飛沫やエアロゾルが口や眼に入りかねないケア

	汚物のウイルス汚染	制御できるか	介助者の口や眼に汚物が入りやすさ	危険
おむつ交換	++	可能	低	低
吐物処理	?	嘔吐の最中でなければ可能	低	低
吸引	+++咳が誘発される	困難	高	高
口腔ケア	+++唾液の飛沫が散乱する	困難	高	高
食事介助	++咳が誘発される	困難	高	中
入浴介助	+		低	中
移乗介助	+顔が近づく	可能	低	中



一番危ないケア: 吸引

- 吸引
 - 咳が誘発される
 - 飛沫が大量に出る
 - 咳を繰り返すとエアロゾルが出る
- 対策
 - 経鼻吸引で口にはマスク着用してもらう?
 - 飛沫対策とエアロゾル対策の両方が必要
 - 換気の確保が望ましい(理想的には)



飛沫対策とエアロゾル対策

飛沫対策

- サージカルマスク
- 手袋
- フェースシールド
- (ガウン)

+エアロゾル対策

- N95(またはサージカルマスクのシール)
- 換気



次に危ないケア: 口腔ケア/食事介助

- 口腔ケア
 - 唾液の飛沫が大量に飛散する
 - 咳誘発の危険がある
 - 顔を近づけて処置せざるを得ない
- 対策
 - 咳誘発さえなければ飛沫対策だけで良い
 - マスク+フェースシールドの着用
 - 非感染期にガウンまで着る必要はないものの、次のフェーズに備えて着脱訓練をする意味はある
 - 訓練として実施する場合は、できれば観察者を置いて問題点をチェック
 - 観察者を置けなければ自分でも振り返り



その次に危ないケア: 顔が近づくケア = 移乗等

- 感染源がマスクをしていてもマスクの周囲からの漏れが問題
 - 発生を減らすために発声や呼吸促迫、咳を減らす
 - 大きな飛沫が問題なので、顔面全面を覆うタイプのフェースシールドなら防護できるはず
- 対策
 - 顔を近づけずに移乗介助できる方法の考案
 - 移乗の際は利用者にマスクをつけてもらう
 - フェースシールドを介助者が着用する



顔が近づくケアで介助者が利用者へ 感染させてしまう危険

- 介助者が感染している場合マスクをしていてもマスク周囲からの呼気の漏れが顔の近づいた場面では感染を引き起こす
- この漏れはマスクの上にフェイスシールドを介助者がつけていても防ぎ切れない
- できるだけ顔を近づけない
 - そのための介助方法の工夫
 - 難聴のある利用者への声かけの方法の工夫
- 介助中に声を出さない



徹底しているとはどのようなプロセス?

- いつも気をつけていて完全に習慣化されていれば問題ない
- 習慣化されているかどうかは意識化しないと評価できない
- 評価できていないまま、「いつも気をつけている」というのは十分ではない
- 本当に大事なケアプロセスは明示的に評価して始めて「徹底」できる
- 評価なしの「徹底」とは精神論に過ぎない



では評価するとは

- 適切なケアプロセスを決める
- そのケアプロセスの必要な場面の発生回数を測る
- その発生回数のうち適切なケアを実施できた回数を測る



対策のポイント

- 無症状者(特に発病の前日)からの飛沫/エアロゾル感染に備える
 - 従事者から利用者への感染防止
 - 従事者同士の感染防止
 - 利用者から従事者への感染防止
- 感染利用者から従事者への飛沫/エアロゾル感染に備える
- 標準予防策の厳守



飛沫/エアロゾル対策

	職員から 職員	職員から 利用者	利用者か ら職員	利用者か ら利用者
発生減少				
放出減少				
到達減少				
汚染除去				
侵入防止				



危険なケアの洗い出し

	一日回数	安全に実施できている回数	改善の目標
吸引			
口腔ケア			
食事介助			
移乗介助			